

「知っているを しているへ」 7月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

最近、健康志向の高まりで食生活に関する健康番組が増えていきます。その中で、減塩が体にいいと学んでも、料理の見た目や味の好みを優先して、いつも通り調味料を使ってしまいます。みなさんも知識があるのに変わらず行動してしまうことがあるのではないのでしょうか。

例えば、大安や仏滅、友引などの「六曜」。日に良し悪しはありませんが、私たちは日常生活の中で大安を選んだり、友引を避けたりして日取りを決めることがあります。六曜は、単に日に吉凶の意味を持たせた科学的根拠のないものと知っているのにどうして従うのでしょうか。それは、私たちの中に、万一悪いことが起こったらどうしようという不安感や周りから何か言

われないかと世間の目を気にして、流されてしまっているからではないでしょうか。

このような姿勢は、差別に直面した時に「差別はいけないと知っているが、世間がそうしているから」といった世間体を重視した態度となって表れるかもしれません。世間に従うことが常識だと思ふ考え方は、時として世間に従わない人を「常識がない」と言って問題視し相手を傷つけたり、差別したりする原因となるのではないのでしょうか。

最近は、お通夜やお葬式で清め塩が廃止され「ふつう」になっています。このように、根拠のない迷信や習わしなどを見直す風潮が広がっていくことも人権文化へ歩み寄る一歩になると思っています。

「差別を止める、人権を尊重する」。知識でわかっていてもそれが具体的な行動にならなければ意味がありません。

学ぶことの目的は理解するのみに留まらず、行動することです。学んだことをどんどん実行に移せる人になりたいものです。

